平成２８年度第２回千葉県地域リハビリテーション協議会
開催結果概要

１　日　時　平成２９年３月１４日（火）　午後１時３０分～３時３０分
２　会　場　千葉市文化センター　セミナー室
３　出席者　協議会員総数１６名中１２名出席
荒井泰助氏、石原徳子氏（代理）、石山明子氏、栗原正彦氏、酒井譲氏、
寺口惠子氏、滑川佳奈恵氏、村田淳氏、茂木優希氏、山崎潤子氏、吉永勝訓氏、
李笑求氏　（50 音順）

４　会議次第
（１）開会
（２）あいさつ
（３）議題
ア　山武長生夷隅地域リハビリテーション広域支援センターの選定結果について
イ　地域リハビリテーション広域支援センターの指定（更新）について
ウ　千葉県地域リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動結果について
エ　千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業実施要綱及び協議会運営要綱の改正について
（４）報告
ア　平成２８年度地域リハビリテーション出前講座の実施結果について
イ　ちば地域リハ・パートナー制度について
（５）その他
（６）閉会

５　会議結果概要
（１）あいさつ
健康づくり支援課瀧口課長よりあいさつ

（２）議題
ア　山武長生夷隅地域リハビリテーション広域支援センターの選定結果について
山武長生夷隅地域リハビリテーション広域支援センターの選定結果について、資料１を用いて事務局より説明。
指定候補医療機関となった九十九里病院より、取組方針等について説明。
＜吉永会長＞
九十九里病院より広範囲にわたる取組計画の説明があったが、限られた予算の中で実施していくことに対する意気込みはどうか。
＜九十九里病院＞
仮に持出しが必要となった場合でも、その点は病院の理解を得ている。また、１７市町村と広範囲に渡るのでマンパワーが必要となってくるが、担当者が地域に出ていくということは、理事部門から了解は得られている。
＜吉永会長＞
説明を聞くと、すでに広い地域でネットワークがあるようだが、職員の方も広い地域から勤務されているのか。
＜九十九里病院＞

地域リハビリテーションに携わるとされるリハビリ職は４０名程いるが、その半数が山武長生夷隅圏域出身者ということで、地域の土地柄や住民性は比較的把握しやすい状況である。

イ　地域リハビリテーション広域支援センターの指定（更新）について

指定期間が満了する地域リハビリテーション広域支援センターの指定継続について、資料２を用いて事務局より説明。

＜荒井協議会員＞

東葛南部や北部などの多くの医療機関がある中で、横の連携を作っていくことは困難な面があり、広域支援センターの支店などがないと広がりが見えていかない。ご検討いただければと思う。

＜事務局＞

広い圏域にある広域支援センター等大変な面があると思う。ちば地域リハ・パートナー制度を作ったので、こちらを利用していただき連携体制を構築していただきたい。

ウ　平成２８年度千葉県地域リハビリテーション支援センター・地域リハビリテーション広域支援センターの活動結果について

県支援センター及び各広域支援センターより資料３を用いて説明があった。

＜茂木協議会員＞

千葉中央メディカルセンターへお聞きしたいが、ケアマネとリハ職の研修会を実施したとあったが、ケアマネは何人出席したのか。また、ケアマネと一緒に開催したことで、良かった点はあるか。

＜千葉中央メディカルセンター＞

参加者は、１月の研修会ではケアマネのみを対象としており、ケアマネ３０名出席。２月の研修会ではケアマネ６名リハ職７名の出席があった。

１月の研修会は連絡協議会に出席されている介護支援専門員協議会の方より、現場のケアマネの中には、リハビリテーションに対する認識が本来とずれている方がおり、それを改善したいとの意見があり実施をした。研修会などでも、リハビリテーションは、パワーリハビリとの認識がある方や、理学療法士、作業療法士の違いを認識していない方がおり、そういった方々に対し見合った研修会が開催できたと思う。

＜茂木協議会員＞

介護支援専門員協議会でも心配している点であり、「リハ職を活用して欲しい」や「地域リハで活躍して欲しい」との依頼を受けるが、ケアマネのこともっと知ってほしい。他の圏域でも余力があれば、ケアマネをどんどん巻き込んでいただきたい。

＜李協議会員＞

実績報告を聞いていると、限られたマンパワーの中で本当に実施できるのか、疑問に思う。

＜荒井協議会員＞

患者さんが地域に帰った後、いかに地域の状況を良くしておく事が重要かということを理解いただいたある程度上の方々が、徐々に地域リハに取り組むという風土を作っていかないと、一部の人だけに負担がかかってしまう。ただ、皆さん時間外に行うなど、苦労している面も多々あると思う。

＜李協議会員＞

時間外も使ってこの様な取り組みを行っていることは、すばらしい。普通の人では出来ないことだと思う。

＜亀田総合病院＞

最初に誰かがやってみて、背中を見せていかないと誰も動かないという面もある。だた、突っ走ってしまうのも良くないので、適度な距離が大切。当広域支援センターで行

っている、リハケア文化際では一切亀田総合病院の名前を使わない様にしている。その結果、亀田総合病院外の方々に企画会議から積極的に参加していただいている。

＜滑川協議会員＞

旭神経内科リハビリテーション病院へお聞きするが、地域リハビリボランティアは今後どのような展開を予定しているのか。

また、成田赤十字病院へお聞きするが、ちば地域リハ・パートナー制度の意見交換会ということで、各病院等に伺ったという事だが、反応はどうだったのか。

＜旭神経内科リハビリテーション病院＞

今後は、地域のサロンにボランティアとして参加していただくのと、出来れば新しくサロンを開催して欲しいと思っている。

＜滑川協議会員＞

サロンとは具体的にはどの様なものなのか。

＜旭神経内科リハビリテーション病院＞

住民主体の通いの場で、健康体操や認知症予防などグループ独自で様々な活動をしている。

＜成田赤十字病院＞

ちば地域リハ・パートナー制度は、リハ職の少ない当広域支援センターにとって助かる制度である。

反応が良い機関とそうでない機関がある。地域リハについてはご理解いただいているが、スタッフが少ないので協力が厳しいという機関もある。

＜栗原協議会員＞

歯科医師会も巻き込んで、事業を実施していただいている広域支援センターもあり、ありがたく思う。

旭中央病院へお聞きするが、和希楽会の活動の経費はどの様になっているのか。

＜旭中央病院＞

香取海匝地域の障害者の方の社会参加を支援することを目的として設立された有志の会である。運営は、基本的にはボランティア活動としている。会議の運営や広報誌の発行については、広域支援センターの委託料の中から出している。実際の活動に必要な費用、例えば料理教室への参加などについては、参加者から集金をしている。

＜吉永会長＞

新八千代病院へお聞きするが、広範囲の機関から協力を得ているようだが、本事業であることを伝えると協力を得やすくなっているのか。

＜新八千代病院＞

市町村だと、引き継がれている方とそうでない方がおり、アンケート等を実施した際に困惑される方も多くいる。

エ　千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業実施要綱及び協議会運営要綱の改正について

本事業実施要綱及び協議会の運営要綱の改正（案）について、資料４・５を用いて事務局より説明。協議会の承認を受けた。

（３）報告

ア　平成２８年度地域リハビリテーション出前講座の実施結果について

平成２８年度地域リハビリテーション出前講座の実施結果について、資料６を用いて報告。また、講師をお願いした、県支援センターより詳しい実施内容について報告。

イ　ちば地域リハ・パートナー制度について

ちば地域リハ・パートナー制度の募集状況等について、資料７を用いて報告。

＜李協議会員＞
　ちば地域リハ・パートナー制度は、県にとって都合の良い制度であり、パートナーに登録するメリットが見えてこない。お金が出ない中で、民間の機関が登録することはできないと思う。
＜石山協議会員＞
　個人的に南房総地域の支援をさせていただく機会があった。医療機関等が少ない中ではあるが、地域の病院や介護タクシーさん等が利用者の方をよく理解していると感じた。その様な、介護タクシーなどが登録できるような、ハードルの低い制度にした方がよいのではないかと思う。
　また、指定というのは、県や広域支援センターで審査等を行うのか。
＜事務局＞
　指定要件では、地域の状況に精通している団体も含めているので、介護タクシーさんなどは、この要件に該当する。
　審査は行わないので、指定としているが登録に近くなっている。
＜荒井協議会員＞
　現在、東葛南部で活動をしているが、協力してくれている医療機関等は約１０カ所ある。協力をしてくれる機関は、多くはないが存在する。そういった所を拾い上げていっていただけるとありがたい。
＜李協議会員＞
　それは、個人として協力をしてくれるのか。
＜荒井協議会員＞
　機関として協力をいただいている。
＜吉永会長＞
　全国の地域リハビリテーション支援事業の協議会がある。会議の中で、他の都道府県では広域支援センターであることを表示してはいけない所もあり、モチベーションが上がらないとの意見があった。
　その際に、ちば地域リハ・パートナー制度の話をしたら、大変良い制度であるとの意見も頂いた。荒井協議会員が言われた様に、地域リハに精通しており熱心な機関は、この制度を利用したいと思うのではないかと想像する。
＜李協議会員＞
　医師会員などに説明する際に、今のままの制度では納得は得られないと思う。もう少し、わかりやすいメリットを提案して欲しい。
＜事務局＞
　まずは、制度を１年間走らせてみて、課題等ふまえて検討させていただきたい。
　介護予防事業への協力については、無償ではなく市町村から事業の枠組みで行ってほしいとお願いしている。